

# ユースアスリート保護者における親子間コミュニケーションの 養育へのエンゲージメントとストレスに対する関連

—サッカークラブに所属するユースアスリートの保護者に注目した検討—

○千葉崎ひかる・嘉瀬貴祥

(人間環境大学総合心理学部総合心理学科)

## 研究の目的

ユーススポーツにおいて、保護者の関与は子どもの発達や競技継続を支える重要な要因である一方で、保護者自身が感じるストレスの問題も指摘されている (Berry & Jones, 1995)。近年では、保護者がどの程度「積極的に養育に関わっているか (=養育に対するエンゲージメント)」という視点も注目されており、エンゲージメントの高さは保護者のウェルビーイングと関連すると報告されている (Freeman et al, 2014)。一方で、エンゲージメントが高くとともに、子どもとのコミュニケーションの質や頻度が不十分であれば、かえってストレスが増大する可能性もある。

しかしこれまでの研究では、スポーツ保護者における養育ストレスとエンゲージメントの関係性を同時に測定した研究は少なく、さらに子どもとの日常的なコミュニケーション頻度がこれらに与える影響については、十分に検討されていない。そこで本研究では、ユーススポーツに関わる保護者を対象に、①養育ストレスの程度、②養育に対するエンゲージメントの高さ、③子どもとのスポーツに関するコミュニケーション頻度の3点に注目し、それらの関連性を明らかにすることを目的とする。

## 方法

### 調査対象者

第一著者が関わっているクラブチームの選手の保護者から協力の得られた43名に加えて、アイブリッジ株式会社の保有するオンライン調査モニターのうち214名に対して、2025年8月から10月に匿名性のウェブ調査を実施した (倫理審査番号: 2025D-005)。分析対象者は252名 (男性131名, 女性121名, 平均年齢44.66歳,  $SD = 7.04$ ) であった。

### 測定尺度

子どもとのコミュニケーション内容については、普段の子供の状況理解度について、1:よく知っている~5:全く知らないまでの5件法で回答を求め、その状況に関する情報は誰から聞く頻度が高いか、回答者の子供、他の保護者、コーチ・

監督、SNS、誰からも聞かない、の合計5つの選択肢によって調査した。

心理尺度は、養育に対するエンゲージメントを測定する Youth Sport Parental Support Questionnaire (Burke et al., 2024) の質問項目を、ユースアスリートの保護者向けの文章に修正したうえで使用した。また、ストレスについては、Parental Stress Scale (Berry & Jones, 1995) を用いた。

## 結果

パス解析を行った結果、子どもとのコミュニケーション得点から養育に対するネガティブなエンゲージメント得点 ( $B = -0.09, p < .01$ ) と養育ストレス得点 ( $B = -0.05, p < .05$ ) に対して有意な負の関連、ポジティブなエンゲージメント得点 ( $B = 0.12, p < .01$ ) に対して有意な正の関連が認められた。また、ネガティブなエンゲージメント得点 ( $B = 0.43, p < .01$ ) とポジティブなエンゲージメント得点 ( $B = 0.18, p < .01$ ) から有意な正の関連が認められた。

## 考察

子どもから学校生活やけがの状況などの様子を直接聞くことは、保護者に安心感と養育に対するモチベーションを与え、ネガティブな関わりを減らし、結果として養育ストレスが低減されると考えられる。一方で、ポジティブなエンゲージメントには「私は、子どものスポーツに関する意思決定を尊重している」などの子どもに寄り添うような関わり方のほかに、「私は、子どものスポーツ活動のために必要な費用を負担している」といった一定の苦労を必要とする関わり方も含まれている。そのため、養育ストレスを高めるような関連を示していたと推察できる。

今後はユースアスリートに対するポジティブな関わりが養育ストレスを高めることがないような保護者の関わり方を検討するために、保護者に対するソーシャルサポートなど、養育ストレスに関連を持つと考えられる他の心理的な要因も考慮して研究を継続することが求められる。